

おもちゃ屋遊び

(口繪の説明)

附屬幼稚園山の組

一學期に一度はきつとする試みでございます。今學期は去る十一月の廿七日にいたしました。始めから終りまで五人の保育實習科生(山の組受持)の發議發案でありました。

用意は凡そ、一ヶ月程前からいたしました。品物の中の或る物は作業として、又或るものは自由遊びの時に有志の子供達が寄り集つて拵へたものでございます。今回は、提灯、かぶと、劍、箱人形、紙人れ、帳面、汽車(きびがら)燈台(きびがら)くさり、等でございます。數は、全園兒に一つ々々行き渡る様、何れも百個以上拵へました。

前日にはお室の大體の裝飾が出来、全園の各組にポスターが配られました。山の組は云ふまでもなく、園全體何となく浮き立つてゐる様に感じられました。

いよ／＼の當日には、組の子供はみんないつもより早く登園いたしました。店も整へられ、店員も定められて、定刻の十時にならうとする頃には全園の子供は潮の様に推し寄せて来て、實社會以上の混雜さを呈しました。「満員ですから一寸お待ち下さい」と云つて、入口を遮つた事が二三たびに止りませんでした。

子供達は入口からは入ると先づ銀行屋さんへ行

つてお店の數だけのお金(厚紙の打抜き)を、貰ふのです、そしてそのお金でもつて、何でも好きなものを求める様にしたのでした。我れ關せず焉といふ態度をしてゐる番頭さんや、夜店の競賣そつくりの呼聲を出して客を呼び集めてゐる番頭さんもありました。が何と云つても呼聲の大きいお店が繁昌してゐる様でした。紙入れや箱を買ひ、表からも裏からも眺めて嬉しそうにしてゐる女の兒や、買ふと直ぐにかぶとをかぶり劔を抜いて、やつとかけ聲かけて向き合つてる男の兒の様子實に面白く、すかさずカメラにと思つてヒント等合せてゐる中、そのポーズが崩れてしまふのはいかにも残念でした。口繪の寫眞はこの時の光景でございます。

後で聞けば、どこの組の子供も「山の組のおもちや屋、もう始まるんぢやない？」と云つて、ろく／＼落ちついてお仕事が出来なかつたそうでござい

ざいますし、山の組の子供の中で「今日はどうしたつて休むのはいや」と頑張つて、のどにシツプをしたり、含漱薬を携へたりまでして出席したのが二三人ございました。又たまにしか見えないお母様が、時でもないのに婆やまで連れて來れての話を、子供が今日はどうしても、お母様も、婆やも來て見て頂戴と申しましたので、どんな催しがあるのかと存じて伺ひましたといふ方も一二組ございました。

さ程にも思へないこうした催しが、この子供達にはどんなにく／＼嬉しく待遠く思はれてゐるのであらうと、今更の様に感じられました。